

教育目標	○学びあう子(本年度重点目標) 助けあう子 きたえあう子	
学校経営の基本理念	目指す学校像	教師の基本姿勢
「関わりの中で高め合う児童の育成」 一人一人の子供たちに、「自立」と、「自律」の力を身に付けさせ、相互依存でない、真に『学びあい、助けあい、きたえあう』子供たちを育てていく。そして、そのために教職員自らが互いに切磋琢磨し、子供たちと共に高め合う集団となる。	(1) 児童が目を輝かせて登校し、真剣に学び合い、友だちや先生と仲良く元氣いっぱい過ごす笑顔あふれる学校(子供の姿) (2) 全教職員が教育公務員としての自覚と使命感、誇りを持ち、共通の目的に向かって、創造的に協働し、互いに切磋琢磨して人間性と専門性を磨き合う学校(教職員の姿) (3) 保護者や地域社会との相互理解、連携を図り、学校のもつ教育力を家庭・地域社会のために積極的に生かし、共に子どもを見守り、育てていく学校(保護者・地域からみた学校の姿)	(1) 授業力の向上を常にめざす。 (2) 信頼ある開かれた学校づくりに努める。 (3) 意識の変化に対応できる学校づくりに努める。 (4) 子供の世界や感性を尊重する。 (5) 今あるものを常に見直し、改善につなげる組織である。

◇ 専科教員を含め全教員で取り組む ■ 全教員で取り組むが成果確認は担任が行う 無印 担任が取り組む

領域	中期経営目標(カッコの数字は経営方針の番号)	短期経営目標	目標達成のための方策	成果指標	成果確認方法(中間7月最終1月末)
学びあう子「確かな学力の向上(本年度重点目標)」	○基礎的な知識および技能の定着(3) ○身に付けた知識及び技能を活用する力の育成(3)	① ■正しい鉛筆の持ち方を身に付けた児童を育成する。	○毎月第1週目は「えんぴつ1週間」とし、「OKマークをくるとまわしてなかゆひまくら」を全学級で確認させ、意識の向上を図る。 ○正しい鉛筆の持ち方ができない児童には、補助具を貸し出し、正しい持ち方を定着させる。	A 身に付いた児童が65%以上 B 身に付いた児童が55%以上 C 身に付いた児童が55%未満	教師の観察による評価
		② 学年配当の漢字の読み書きと基本的な計算の仕方を身に付けた児童を育成する。	○ベーシックドリル等を活用しながら、前学年までに配当されている漢字の読み書き、計算の練習をさせる。 ○漢字の読み・筆順・熟語の確認・繰り返し書き取り練習を毎日取り入れ継続する。	A 国語・算数の平均正答率が90%以上 B 国語・算数の平均正答率が80%以上 C 国語・算数の平均正答率が80%未満	ベーシックドリルの平均点で評価
		③ ○自分の意見を持ち、場に応じた適切な言葉遣いで話尾まではっきりと言える児童を育成する	○発問を工夫し、全員が挙手できるような場面を授業に取り入れる。 ○教師が範を示しつつ、子供の発言を最後まで聞く姿勢をもつ。 ○話型を各学級で掲示し、語尾を意識して発言できるよう指導していく。	A できるようになった児童が80%以上 B できるようになった児童が70%以上 C できるようになった児童が70%未満	教師の観察による評価
		④ 問題解決に対する見通しを持ち、根拠を立てて仮説を記述できる児童を育成する(3、4年) 問題の解決を図り、学んだことを振り返り考察を記述できる児童を育成する(5、6年)	○仮説 ①文型(話型)を用いて表現させる ②記述の観点を与える。これにより、学んだことを活用し思考力・判断力・表現力を高めさせる。 ○考察 ①記述の観点を与える ②記述した文章を友達と交流させる。これにより、学んだことを振り返り思考力・判断力・表現力を高めさせる。	A 80%以上の児童が教師設定基準を達成(3・4年) A 55%以上の児童が教師設定基準を達成(5・6年) B 75%以上の児童が教師設定基準を達成(3・4年) B 50%以上の児童が教師設定基準を達成(5・6年) C 教師設定基準を達成した児童が75%未満(3・4年) C 教師設定基準を達成した児童が50%未満(5・6年)	ノート分析による教員評価
助けあう子「豊かな心の育成」	○自己肯定感をもち、他人も大切にすることを児童の育成(1) ○地域・学校を愛する心をもった児童の育成(4) ○社会の一員であるという自覚と規範意識をもった児童の育成(5)	⑤ ○仲間外れや相手の嫌がる言葉遣いなどのいじめをしない児童を育成する	○年2回「いじめアンケート」を実施し、予防策・早期発見に努める。 ○人権月間に、ビデオ・DVD教材を活用し、自分や他の命を大切にしようとする態度を育む。 ○5・6年生全員とスクールカウンセラーの面接・給食交流を行い、相談しやすい環境を整える。	A 100%の児童が、いじめをしない B 90%の児童が、いじめをしない C いじめをしない児童が90%未満	児童アンケート調査による評価 教員自己評価
		⑥ ■自分を大切にし、自分に自信が持てる児童を育成する	○自尊感情アンケートを実施し、結果を基に個々に合った自信の持たせ方を教職員全員で共有する。 ○児童の表現活動(文章・発表・作品・演奏等)を交流し合う場を設け、よさを伝え合い、互いを大切にしようとする態度を育む。 ○保護者との面談等を通し、児童のよさや、つまづきを共有し、児童に自信を持たせる。	A A自己評価・自己受容が2.9未満の児童が10%未満 B A自己評価・自己受容が2.9未満の児童が15%未満 C A自己評価・自己受容が2.9未満の児童が15%以上	児童アンケート調査による評価 教員自己評価
		⑦ ■五十周年行事等を通して児童に地域・学校を愛する心をもたせる。	○「トライ&チャレンジ」の活動を通し、地域に関心を持たせ、自分が地域の一員であることの自覚を持たせる。 ○地域行事(お祭り・芸小ホールイベント・ラジオ体操等)を紹介し、参加を促し、地域の方との交流を図る。 ○五十周年行事(児童集会・作文・写真撮影等)にめあてを持ち、すすんで参加できるように指導する。	A 地域・学校が好きである児童が95%以上 B 地域・学校が好きである児童が80%以上 C 地域・学校が好きである児童が80%未満	児童の作品(作文等)、観察による教員自己評価
		⑧ ○すれ違った先生や外部の方に、適切な(明確な声・一度あいさつした人には黙礼など)挨拶ができる児童を育成する。	○各学級で作成した「あいさつ宣言」を校内に掲示し、年間を通して適切なあいさつに対する意識を高める。 ○高学年の児童には、あいさつ当番等の活動を通して手本となるあいさつをさせる。 ○教職員がお手本となるあいさつを行う。	A 95%以上の児童が身に付けている B 90%以上の児童が身に付けている C 身に付けている児童が90%未満	児童観察による教員評価 児童アンケートによる自己評価
鍛えあう子「たくましい体の育成」	○基礎的な体力の向上(4) ○心身の健康づくりに努力する児童の育成(4)	⑨ 基礎的な体力の向上に努める児童を育成する。	○年間15回、水曜日の中休みに「ハチワタ」体を設定し、クラスごとに、体力向上を図るための運動に、順次取り組ませる。 ○体育委員会による「ハチワタ作り」を学期に一回開催し、体力向上を図った運動を、ゲーム感覚で楽しみながら行う。 ○教室にハンドグリップなどの簡単な器具を置き、握力や手首の強化を児童に促す。 ○各クラスで1年間を通して行える体育的活動を「位置学習実践」として、設定する。 ○柔軟性を高めるために、「くにごストレッチ」を体育の準備運動に取り入れる。	A 都平均と同じか、上回る種目が75%以上 B 都平均と同じか、上回る種目が70%以上 C 都平均と同じか、上回る種目が70%未満	6月末までに実施した体力テストで教員が評価
		⑩ ○自分の体や健康について意識し、健康な生活を送る努力をする児童を育成する。	○体力向上に関するお便りや保健だよりにて、早寝早起きなどの大切さを伝え、保護者への意欲啓発を行う。 ○養護教諭による保健指導を通して、自分の体への関心を高め、健康の大切さを理解させる。 ○健康診断の結果、季節など、児童の実態に応じた健康課題を解決するための活動を保健・給食委員会で行っていく。	A 「早寝早起き朝ご飯」がほぼ(週4日以上)できていると答える児童が90%以上 B 「早寝早起き朝ご飯」がほぼ(週4日以上)できていると答える児童が80%以上 C 「早寝早起き朝ご飯」がほぼ(週4日以上)できていると答える児童が80%未満	児童調査カードによる自己評価
		⑪ ■好き嫌いをしていないで給食を食べる児童を育成する。	○校長講話で、食についての話をし、残菜減量についての意識啓発する。 ○給食指導目標を基に、各学級で、声かけをし、残菜減量に向け声かけをする。 ○食育月間で、発達段階に応じた食育指導を行う。 ○児童の実態に応じた残菜減量のための活動を保健・給食委員会で行っていく。	A 平均より1%以上残菜(おかず)の多い品目が全体の15%以下 B 平均より1%以上残菜(おかず)の多い品目が全体の20%以下 B 平均より1%以上残菜(おかず)の多い品目が全体の20%以上	給食センターから送付される残菜率で記録、学年末評価